

今日のみことば

□ 8月26日(日) エズラ 7章

エズラはバビロンを去って母国に赴くことが神のみ旨であることを知った。アルタシャスタは学者であり教師であるエズラに律法を教え、母国の行政長官に任命した。

□ 8月27日(月) エズラ 8章

エズラは神の保護がることを信じて母国へ帰った。彼の証言の言葉だけではなく、現実信じていた。すべての者は祈りと断食をもって神に願った。神はより頼むものを辱められない。

□ 8月28日(火) エズラ 9章

帰国依頼、祭司やレビ人たちは異教の民と結婚をした。それは神に禁じられていたことであった。人種偏見のためではなく偶像礼拝に陥らないためでした。

□ 8月29日(水) エズラ 10章

神からどんなに遠く離れ、罪がどんな極悪のものであってもそれを神に告白するなら、そこに希望は残されている。エズラも民も心から罪を認め告白した。敏速な行為が彼らを救った。

□ 8月30日(木) ネヘミヤ 1章

ネヘミヤはエルサレム居留民たちの悲しい知らせを聞き、遠く母国を離れているとはいえ、彼は自分の国民のために大変心配して4ヵ月の間状況を悲しみ祈り続けた。

□ 8月31日(金) ネヘミヤ 2章

王はエルサレムの城壁再建のために、ネヘミヤがエルサレムに帰ることを許した。ネヘミヤはエルサレムに着くと、再建の計画を立てるために、城壁を視察した。

□ 9月1日(土) ネヘミヤ 3章

ここには城壁修復事業の配置表が記されている。ネヘミヤは城壁再建のための民を配置した。民の各集団はそれぞれ城壁を修復すために、それぞれ一つの場所ウイ受け持った。

ろ ぼ No. 1882
2018年 8月26日
日本バプテスト 立川キリスト教会
牧師 大川 博之

ロマ 8:31

では、これらのことについて何と言ったらよいだろうか。もし神がわたしたちの味方であるならば、だれがわたしたちに敵対できますか。

「もし神がわたしたちの味方であるならば、だれがわたしたちに敵対できますか。」これほどの言葉を、私たちの人生の中で聞かせていただく言葉はありません。パウロははまだ会ったことはないけれども、ぜひに会って「福音」を語りたいローマの人たちに書く手紙の中で、徹底して伝えたいことがこのことでした。

「義人なし、一人だになし」と言い、「罪の支払う報酬は死である」と宣告されるこの私が、今は命を与えられ、生かされているということは、いったいどうゆうことなのでしょうか。それは神さまが私たちを生かしてくださっているからです。

私たちはいつも死と向き合っています。この肉体の死はもちろん

のこと、その靈性においても同様です。そこで私たちは平穩でいたい、。安らかでいたいと願わない人は一人とこの世にはおりません。ところが、その私たちの願いを打ち砕くがごとき言葉をパウロはこのローマの信徒への手紙の冒頭で告げてきたのです。むごいと言え、むごすぎる言葉だと思います。けれどもそこからしか、私たちが救われる道はないということも事実です。罪人である自分をしっかりと知ることなしには、救いにいたる道を私たちが歩むことはできない、と告げるパウロの言葉を、私たちはしっかりと聞かせていただく。それがこのローマの信徒への手紙のこの前半で語られたものだと、私は理解し

て読ませていただきました。

最近私は、犯罪を犯される人たちの知性を疑わさせられような言葉を聞かされ、耳を疑うことがしばしばあり、愕然としています。私たちの社会生活の中で、して良いことと悪いことの判断のルールは定められています。人のいのちの道も、その創造の初めから神さまは定めておいででした。それを守ることができなかつたために、エデンの園を追放され、死ぬべきものとされました。しかしその私がどうして生きることができるのか。神の定めを犯したその犯罪を償う道はこの世には一つとしてありません。許していただくために、この命を上げるからと言ってそれはかなわないことで、手の施しようはありません。しかし、ただ一つだけ可能な道があります。それが「ヨハネ3の16」です。

私は神さまがどのようなお方であるか、本当に理解に苦しむことしばしばです。しかし神さまの摂理はまことに行き届いたもので、パウロは「神を愛する者たち、つまり、御計画に従って召された者たちには、万事が益となるように共に働くということを、わたしたちは知っています。」と言います。私たちは神の摂理に全き信頼をおいて、安んじるだけです。そしてすべてにわたって、神さまが味方、とパウロは宣言します。この大胆な宣言ができるのは「わたしたちすべてのために、その御子をさえ惜しまず死に渡された方は、御子と一緒にすべてのものをわたしたちに賜らないはずがありませんか。」と。ヨハネ3の16です。このキリストと共に生きるとき、永遠の命に生きる私がそこにいます。すべてに勝利して、御国に凱旋する私をそこに見ることができるのです。今あなたはそこに喜び生きていることを感謝することです。

次週の聖書・説教

ヨハネ4:1-26 礼拝すべきお方

聖書の学び・祈祷会 》

士師記11:1-11 トブの地のエフタ

イスラエル人の敵国は、神の民を苦しい目にあわせました。イスラエル人が助けを祈り求めると、神は彼らを憐れまれ、彼らを助け導くために、強い指導者（士師）を送られました。

アモン人がイスラエルに向かって挑戦してきたとき、ギレアドの氏族はエフタに助けを求めてきました。正妻の子ではないという理由で一度は氏族から追い出したエフタに泣きつくほどに、ギレアドの人々は藁をもすがる思いでした。エフタはすぐに応じることはせず、口約束ではなく、あくまでも神のみ前で契約を結ぶことを条件に、指揮官となることを受け入れます。

エフタはギレアド族の長老たちの懇願によってアモン人の王の挑戦を受けて立つことになりました。主の霊に満たされたエフタは、アモン人を打ち破りました。一度は自分たちの都合で追い出しておきながら、窮地に陥ると頼る、人の心変わりにもエフタはただ神にのみ仕えるのでした。



Read God's Word.